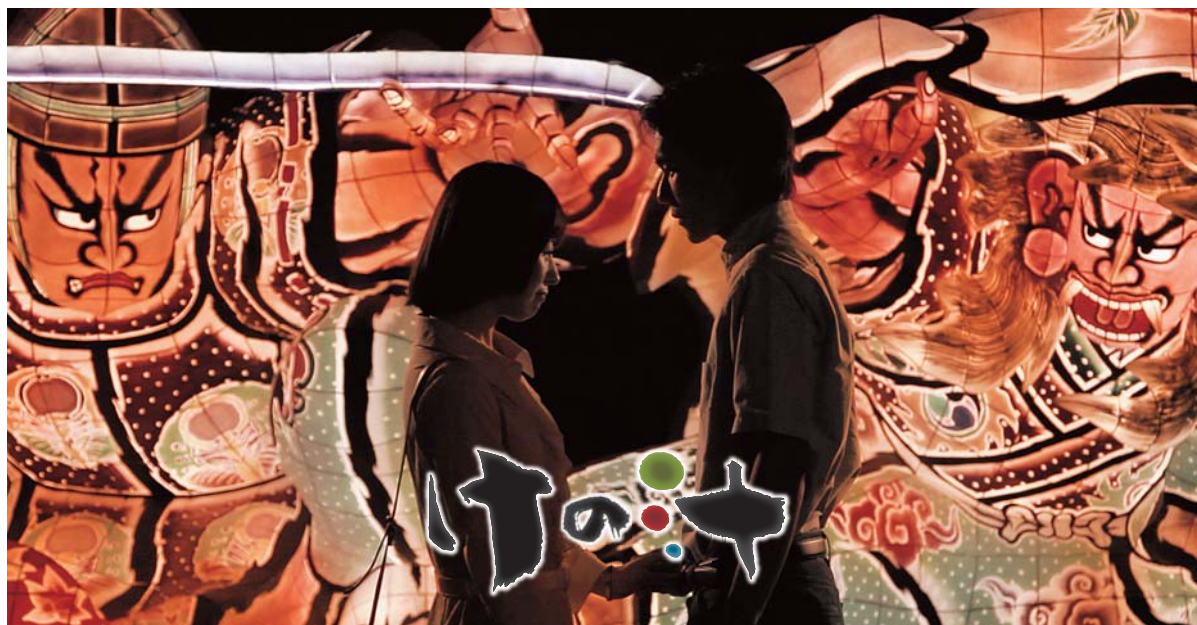


「つがる」の魅力が詰まった「けの汁」完成

ショートムービー

市民参加型の映画を制作

つがる市フィルムコミッション(川嶋大史会長)が、つがる市の魅力を全国へ発信し、東北新幹線全線開業による誘客や映画などの誘致を目的として制作してきたショートムービー「けの汁」(33分)がこのほど完成し、5月14日から27日まで、シネマヴィレッジ8・イオン柏で公開され、多くの市民らが鑑賞しました。



【ストーリー】

馬市まつり、りんご畑、出来島海岸など市の風物や名所を随所に盛り込みながら、父親が嫁ぐ娘に亡き母親の思いがこもった「けの汁」を伝えるというストーリーで、親子の絆や故郷のありがたさを描く。

出演：三上寛、浜丘麻矢、小林あずさ、天野浩成、石田法嗣
監督・脚本：千村利光／企画：川嶋大史／プロデューサー：三橋輝規、湊谷恭史

昨年5月、つがる市フィルムコミッションでは、東北新幹線全線開業を機に、つがる市を全国へPRするための映画制作に取り組み始めました。川嶋会長は「単なる観光地巡りのPRビデオは、見る人がしらけてしまう」との考えから、あおもり映画祭でかねてから親交のあった神奈川県出身の千村利光監督に脚本を依頼。千村監督にとってつがる市はこれまで幾度となく足を運んだ縁深い地。自然、伝統文化、風景、食、人情、津軽弁などさまざまな魅力のあるつがる市を、いろいろな具材の味が詰まった郷土料理「けの汁」に重ね、ストーリーを書き下ろしました。「市民の方々からいろいろな話を聞かせてもらい、作り上げた」と千村監督。出演者は、本県にゆかりのある小林

あずささん、三上寛さんほか第一線で活躍する計5人の俳優陣。プロデューサーに五所川原市出身の湊谷恭史さんを迎え、制作が本格的に始まりました。制作発表会見で千村監督は「故郷を持たない人の憧れ、故郷から離れた人の郷愁、故郷に住み続けている人が持つ地元への想い、いろいろな『望郷』をつがる市の魅力とともに表現できれば」と語りました。8月に



多数の市民が参加した市内でのロケ(平成22年10月10日、11日)

日中友好映画「明日に架ける愛」 つがる市舞台にロケ

日中友好40周年記念映画「明日に架ける愛（仮題）」（香月秀之監督）のロケ地につがる市が選ばれ、5月10日から16日の間、市内各地で撮影が行われました。この映画は、青森と東京、北京を舞台に国境を越えてつながる命と愛を描いた作品で、今回のロケでは、女優・市井紗耶香さんや八千草薫さんらが市内の施設や民家、田園風景の中で市民エキストラとともに撮影に臨みました。

映画は来春、日中両国で公開される予定です。



中国人俳優アレックス・ルーさん(左)と子役の大森絢音さん(右)に福島市長がつがるちゃんグッズをプレゼント



森田町大館地区では葬列のシーンが撮影された



向陽小学校では主人公の幼少期のシーンを撮影。4年生26人がエキストラで参加。児童は「緊張したけど楽しかった」と目を輝かせていた

は馬市まつり、10月には3日間に渡り市内各地で撮影を実施。連日多くの市民がボランティアスタッフやエキストラとして参加しました。そして編集作業、関係者試写会を経て今年3月、つがる市の魅力が詰まった市民参加型の映画「けの汁」が完成しました。

作品を鑑賞した市内在住の30代の男性は「感動して涙が出た。短い作品だがストーリーがしっかりしていて見応えがあった」、60代女性は「けの汁は、家庭によって材料、切り方、味付けが違い、その家の『味』がある。映画を見て大切な郷土料理だと感じた」と感想を話していました。



千村監督(右)、小林さん(中)の舞台挨拶
(5月22日、シネマヴィレッジ8・イオン柏)



つがる市を誇りに

市民参加型の映画制作は、つがる市のために何かしたいという人が参加できるいい機会でした。大きなことはできなくてもエキストラとして参加したり、裏方で手伝ったりすることを通して、市民の気持ちの一体感が生まれました。自分が参加することで映画の役に立ち、つがる市のPRにも役に立ち、そんな気持ちの輪が広がり嬉しかったです。千村監督はじめ外の人の視点が入ったことで、私たちの故郷の良さを再発見することができました。普段見慣れている岩木山が見える田園風景こそが宝なんだと教わりました。この映画を通して皆さんがつがる市を誇りに思うようになってくれれば幸いです。



つがる市フィルムコミッション
会長 川嶋大史

つがる市フィルムコミッション／映画やテレビドラマ、コマーシャルなどの撮影を誘致し、地域活性化、文化振興、観光振興を目指す非営利団体で、平成21年に設立。会員数は法人団体24、個人37。